

地域医療支援病院の業務報告

救急用又は患者輸送用自動車により搬入した
救急患者数の実績

	令和2年度	令和3年4~9月
在院患者延数	78,354名	35,276名
紹介率	96.5%	93.4%
逆紹介率	83.6%	97.6%
平均在院日数	17.8日	15.0日
病床利用率	65.0%	58.4%

項目	令和2年度	令和3年4~9月
搬送数	476回	241回

地域連携室の活動状況(令和3年度上半期)

かかわった入院	全入院患者の 15.6%
かかわった退院	全入院患者の 35.5%
相談件数	院内 3,380件
	院外 358件

薬剤師の **おくすりいろいろ話** 其の45

子宮頸がんワクチン(HPVワクチン)

2013年以降、接種後の多様な症状(運動障害、失神、けいれん、認知機能低下等)が報告され、厚生労働省はワクチン接種の積極的勧奨を差し控えていましたが、接種による有効性が副反応のリスクを明らかに上回ると認められた為、今年、積極的勧奨の再開を決定しました。接種後の多様な症状が報告されてから、国内外で多くの解析が行われてきましたが、当該症状とワクチンの因果関係を科学的・疫学的に示した報告はありません。また、HPVワクチン接種歴がなくても、接種後の多様な症状と同様な症状をもつ人が一定数存在することが報告されています。日本で積極的勧奨が差し控えられている間、HPVワクチンの有効性と安全性について多くの研究結果が発表されています。接種しなかった女性に比べて子宮頸がんの発現率は、英国では87%低く、スウェーデンでは88%低いことが報告されています。

【子宮頸がんについて】

子宮頸がんの発症にはヒトパピローマウイルス(HPV)の感染が関わっています。がんは早期に発見されれば比較的治癒しやすいと言われていますが、発見が遅れると難しくなります。

【HPV接種後の副反応】

主に、発熱、痛み、腫れなどです。

【副反応が起こった時の補償】

専門家からなる国の審査会で因果関係が証明されれば補償を受けることができます。申請する際は、診察した医師、保健所、お住まいの市区町村の予防接種担当課へご相談下さい。

引用:厚生労働省ホームページ



栄養関連ニュース

今年も残すところ僅かとなりました。クリスマスにお正月とイベント事が続きますが、食べ過ぎないよう心がけましょう。

ケーキのエネルギーや脂質ってどのくらい？



タルトやパイ生地のケーキは高エネルギーの傾向にあります。

チョコケーキやミルクレープ、モンブランなどは脂質の量が多いです。



ショートケーキやスフレチーズケーキは上記よりもエネルギーや脂質の量は少ないです。

比較的低エネルギーのものにはシフォンケーキやパパロアが挙げられます。



ご飯1杯のエネルギーと同じお餅の量は？



240kcal
米飯



切餅 2個



丸餅 3個

編集後記

今年の冬は大変厳しい寒さですが、お肌の調子はどうですか。暖房は空気中の水分も一緒に吸収してしまうため、空気が乾燥してしまいます。そのため、肌が乾燥して肌荒れを起します。毎日お風呂上りにボディークリームを塗ると肌のバリア機能が保たれ、乾燥しにくくなります。肌が荒れてしまったなど感じたなら早めの対策をしましょう。

徳山医師会病院だより



2021年 第54号
発行元 地域医療支援病院
オープンシステム
徳山医師会病院
〒745-8510
周南市東山町6番28号
TEL 0834-31-2350
FAX 0834-31-1623
http://www.tokuyamaishikai.com/

当院は4回目の病院機能評価を受審しました

当院では、より良い医療を提供するために、平成17年から(財)日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価を受診しています。

令和3年11月11日(木)、12日(金)の2日間にわたり、評価調査者(サーベイヤー)9名による審査が行われました。

評価の結果が出るまで数ヶ月かかりますが、サーベイヤーからの指摘やアドバイスをもとに、さらなる改善活動に取り組みます。



《基本理念》

地域医療支援病院 オープンシステム 徳山医師会病院は医道の昂揚、医学・医療の発達普及及び公衆衛生の向上、社会福祉の増進につとめます。

1. 人間としての尊厳を守り、良質で適切な医療・看護を目指します。
2. 全人的医療を目指し、十分な情報を提供し、信頼関係に基づいた医療を行います。
3. 病診連携を図り、一致協力し、地域社会の要請に応える医療を提供します。

《基本方針》

1. 安心安全の医療を推進します。
2. 患者さん本位の医療を推進します。
3. 地域に開かれた医療を展開します。



当院では受診の際「開業医」の紹介が必要です。
当院での診察や検査をご希望の方は「かかりつけ医」若しくは「開業医」へご相談ください。

当院のCT装置が 新しくなりました



令和3年12月、当院のCT装置が更新されました。今まで使っていたCT装置は7年の使用でしたが、放射線機器は、だいたい10年くらい使うことが多いのでかなり早い段階での更新となりました。

MRIの更新工事に比べると工事期間は短く、別れを惜しむ間もなく、撤去から据え付けまであっという間に終わってしまいました。ただ、そうは言っても約2週間CT検査が出来ないということで、検査を必要としている患者様や主治医の先生方には大変ご迷惑をおかけしました。その分、新しい装置にはこれからの活躍に期待しています。



前のCT装置の搬出作業の様子



新装置搬入の様子

新しいCT装置になり大きく変わったことは、検査での被ばく線量です。当院でこれまで使用していた装置に比べると大まかに半分の放射線被ばくで同等以上の画質で写真を撮ることができるようになりました。

放射線を使用した検査では一般的に多く放射線を使用した方が綺麗な画像を提供することができるため、診断の為に画質を落とさずに被ばく線量を下げる、というのは難しいところがありました。しかし、画像再構成の技術の進歩やコンピューターの計算速度の上昇、ディープラーニングを用いたAI技術の登場などもあり、被ばく線量を低下させても診断に必要な画質を担保できるようになりました。

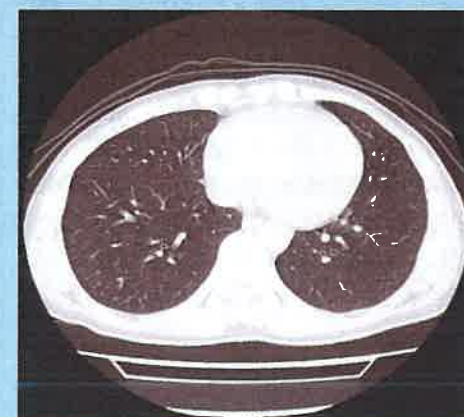
また、医療放射線被ばくは医療法の改正で安全管理体制がより強化されるよう規制が強くなり、新しい装置ではまさにその被ばく線量を今までより抑えることができるようになりました。当院がオープンシステムであることを考えると、周南地域一帯での被ばく線量低下に寄与できるのではないかと思います。地域医療への貢献ということでも意味ある装置更新になったと思います。

他にも、従来よりも低い管電圧での撮影の実用性が良くなったこともあり、造影剤量を少なくできる可能性も出てきました。造影剤量を減らすことで腎臓への負担を軽くでき、腎機能の低下があるような患者様への検査適応が広がることや、副作用発現リスクを下げ、より低侵襲な検査が実施できるようになります。

また、今までは体内金属のある患者様の画像は見えづらいものとなっていましたが、金属アーチファクト軽減の技術により、より良い画像を得ることができるようになり、幅広い患者様への対応が可能になりました。



骨の3D画像も
綺麗に撮れるよう
になりました♪



息止めの残り秒数が
寝台上からも分かるよう
になりました!

新しいCT装置が周南地域の皆様に貢献できるよう、今後とも放射線科一同努力していきたいと思えます。